

金春流獨吟仕舞型附 初級用

特 258

189

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50^{mm} 1 2 3 4 5

始



将258
189



金春流獨吟仕舞聖附

初級用

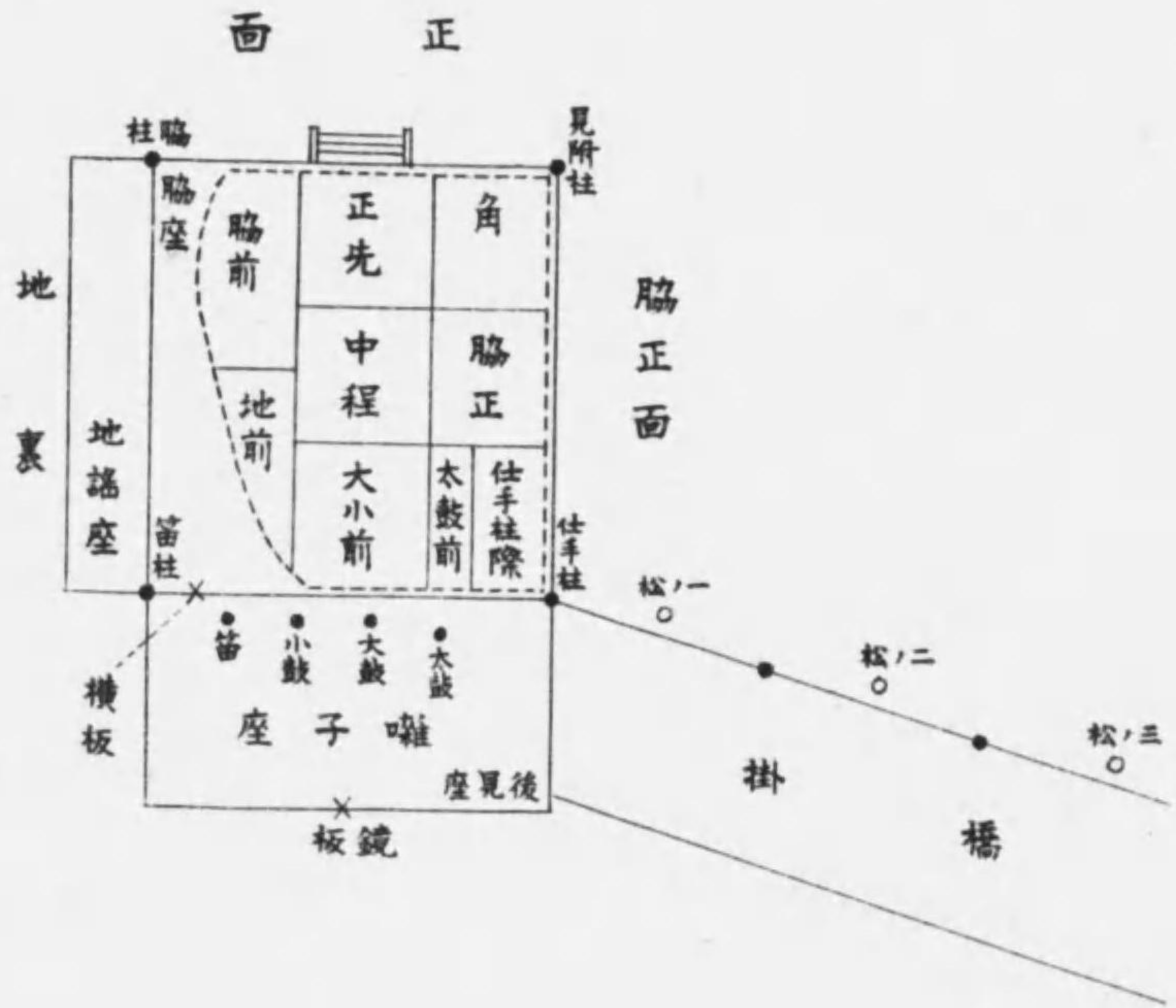


金春流獨吟仕舞型附 初級用

目次

七騎落 紅葉狩 西王母 高砂 羽衣 八島 三井寺 狸々

一三六八十一十四十九二十二



舞臺名稱圖解

- △ 仕手柱際、事ヲ常座、角ノ事ヲ見付柱際、脇柱ノ事ヲ大臣柱トモ稱マ
- △ 仕舞ハスベテ横板ヨリ前、點線内ニテ舞フモノトス

七騎落切

扇ヒロゲ
 強上シテ
 かく時をさむんかす。 地立
 かく時
 正入田サヅビラキ
 指廻サシ入田
 右へ廻リ
 大小前ニテ正へヒラキ込
 目さむんかす。西國の兵はせ巻
 すれば。ほごなく御勢二十万騎に

六拍子
 右へ踏込ミ
 脇方へ打込ミ指シ 脇方へ出
 減給ころろ。掌にて治めたまふは

指廻シ
 君の清代の。目出たまふも実

大キクウケテ
 右へ廻リ 見付角へ行キ
 平丘も志勳の道に入る。実平

大小前へ行キ 小廻リ 正へ二足揃ミ 片左右シトメル
 だも志勳の道に入る。平丘の

名もこそあざにちれ。

紅葉狩曲

和合
 シテ
 左拍子
 地立
 されば佛も戒の道は様々多けれ

田舎田舎
 殊に飲酒をかぶつたなば。邪淫毒語

ももろもろに。みだれ心の花がづら。

かる姿は又せらもたぐひあまの

はかしのまのまのさかならん

よ。せむは是とも。前せの

右拍子 角へ行き角トリ 左へ廻リ

大小前ニテ正向キ 拍子

右へ踏込ニテ左右シトメ

肩ドロテ

上羽

シテ上

上羽

(下ダ)

(上ダ)

同上

大左右

(左へ出)

ちぎりの浅からぬ。ふかき情の色

見え。から折も道野辺の。

草葉の露のかげもかたさぞ

頼む行まよ。ちぎるもはたな

左拍子

右へ出テ正先へ出ナリニ打込ニ指

ヒラキ

右へ廻リ

中程ニテ指返シ角へ行

角トリカサジ

左リへ廻リ

大小前

ニテ小廻リ

左右ジトメル

しやに人の心は〜〜
らるけ〜〜

西王母切

花もさるさ杯の。花もさるさ
和合シテ 扇ヒロゲ

正へ出指ヒラキ左膝立テ下ニ居

左手指廻シ 其ノマ、左へ静カニ向キ

杯の。手先さるさ。曲水の宴か

指廻シ

右へ廻リ地前ヨリ兩手上ゲ角へ出テ

や。沸溝の水に。戯れたはるさ

角取り袖カムル型

左へ廻リ扇右手ニ取直シ

福女の。袖も裳裾も。たなびきた

大小前ニテ

正へ一足指シ

右ウケ天ノ扇

なびく。雲の花鳥。春風に和〜

左へネ手指廻シ角へ出

角トリ カサシ

ハ

つゝ雲路にうつれば。王母も伴ひよ

左へ廻リ

ぢのぼり。王母も伴ひよるや天路

大小前ニテ小廻リ正へ一足出指片左右仕止メル

の。ちくも一ずぞなりける。

高砂切

扇ヒロゲ

強上

シテ

実かまおまの舞姫の。こゝろもす

立

正へ直シ

脚正方へ二足出

ヒラキ

むなつ位のえの。松陰もうつるな

正へ直シ

左拍子

角へ出

る。青海波とは是入やらん。神と

地

君とのみちすぐた。都の春に行か

角トリ

九

左へ廻リ

くは。ミテ それぞ 還城樂の舞。

脇前ニテウケ仕手柱方へ行

地 きて万歳の。

小廻リ

小忌衣

地

さすかひ

指別ケ(左手指廻シ)

脇方へ出、……指廻シ右へ廻リ)

ヤア ヨウ ヨウ

なごは。悪魔をはらひ。さすかひの手

大小前ニテ正向左、右、トカ、

ヘル様ニジ

ヤラ エ

六ツ拍子

右へ踏込

には 寿福をいだき。千秋樂は民

左へネ手指廻シ角へ行

まなご。萬歳樂にはいのちのむねのぶ。

角取カサシ

左へ廻リ

大小前ニテ小廻リ

左右シトメル

相生の松風。さつさつのはるかに

のしむ。さつさつのはるかにの聲ぞたのむ。

羽衣切

和合
シテ

あづまあそびの敷くに。地立あづま

正先へ出

あそびの敷くに。その名も月の。指ヒラキ

左へネ手指廻シ 角方へ四足出

ヒラキ

右へ廻リ

いろ人は。三五夜中の。空のまた満

本敷前ニテ 正へ一足出シカケ

正へ一足出指廻シ 扇正方へ二足出ヒラキ

願真如の影となり。浄願田満國

正へ直ジ(一足引き) 両手アゲ正先へ出ナリニマネキ扇ニツ

土成就。七寶充滿の。たからをふら

二足引乍ラ扇両手ニテ持ゲ持 正へ一足出

扇左へトリ

一。國土のれを。ほごう。鈴ふ。去

左へ廻リ

仕手柱方へ行

正へ一足出指右受ヒラキ

羽根扇ニツシ乍ラ

程に。時うつつて。天の羽衣。浦風

脇方へ出

後スサリ扇右ニ持カヘ

左へ静ニ持廻シ角へ行キ

にたのびきいたのびく。と保の松原

ふき島が雲の。あだか山や富士
小廻リ
ハル
角取カサシ

の高根。かすかにありて大津津空
左へ廻リ
大小前ニテ小廻リ正へ一足出指
ヒトハソト

の麓にまがねをこしらへけり。
方左右ツツメル
ハル
ハル

八島切

扇ヒロゲ

けふの修羅の敵はたそ。何能登守
立
トノカサ

教領とや。あら物ごとくまなみは知
ユウケン
ノリツツネ

りぬ。思ひぞ出づる。壇のころの。其
打込ミ 指ヒラク
強吟 正へ
地

舟軍今はなや。其舟軍。今ははや。
直シ拍子
右へ踏込ミ

左へウケ正先へ出ナリニシカケ

隅に帰るしきりに海山同に

ウケ 裏指廻シ廻り飛

下二居 角ムキニ天ノ扇

立 半身ニテ

震動して舟よりは固聲に陸に

橋方ヲサシ 以下修羅ノ型

は浪の楢 月にしらすむは 劔の

左手指廻シ

正先へ出

身ヲ入レカへ左半身扇ヲ高クアゲ上ニテ折リ下ヲ見

ひかり。 潮にうらるは 兜の星

左拍子指廻シ

右へ廻リ

仕手柱方へ行

右へ廻リ込左手指廻 脇方

のかげ 氷やそらそら 行くも赤

へ出 身ヲ入レカへ一太刀打ち

右拍子

身ヲ入カへ右ヒジ引キ強ク一足出ナリニ突差シ其マ、

雲の波うらちあひさしちがふる

仕手柱方へシサリ右へ又キ足

下二居

立 修羅廻リ

扇ヲ

舟ふちのあひさしきし沈むとせ

ヒロゲ

静カニ天ノ扇

一程の春の夜のなみより明けて。

指廻シ見付柱際へ行キ大キク

立 指廻シ角へ出

敵と見えうは群居る鷗。岡の聲

見付柱際ニテ大キク變ケ

大小前へ行

と國えうはうら風なりけり高松

小廻正へ一足出指シ

片左右ジトメル

の。うら風なりけり高松の朝霧と

ぞ成にける。

三井寺 道行

和合上シテ

都の秋を捨つて行かば。月見ぬ

地上合立

(右)

正へ一足出指廻シ右變ヒラキ正へ

里にすむななるふとちんさくもわ

直シ

正先へ出ナリニ拍子

らはあやふも紅葉も。月も

雲の古郷に我が子のあるならば田

舎も住よからま。古郷に帰

らん。古郷にかへん。帰ればち

たふみやが唐崎の。おみどり

臨前ニテウケ

左ノ廻リ

仕手柱

臨入行ナリニシカケ

打込ミ構方ヲ見

臨正へ二足出 見廻ス心

中程入行ナリニ拍子

子の頼ならば。お風の事あるは。お

風も今は。藏は。櫻咲く春なら

ば花園の。里もは。おまはる。

臨正へ出右左下面壁

左へキリツト廻リ大小前へ行キ

風凍。お水の川舟。春に着き

終

